



申6号

全ての組合員・家族が未曾有の物価上昇を乗り切り年末・年始輸送を完遂するための健やかな生活保障を求める緊急申し入れ

## 1. 6ヶ月の年末手当回答を受けた追加申し入れ団体交渉その1

(組合) 申4号回答は納得がいけない低額回答であり緊急申し入れを行った。組合員から「申し入れを出しても出さないだろう」「出せるものがあれば申4号回答で出していたであろう」という声も届いているがこの申し入れで会社が絞り出し、上積みなれば間違いなくモチベーションが上がる。JR東日本は黒字で2.4+2万円。バス東北は単月黒字を達成し2.0ヶ月のボーナスを出している。今日回答を受けるとともに、両社を指標とした今後のモチベーションの上げ方も議論したい。バス関東会社が単月黒字を達成した暁にはどのようにしていくのか。黒字になった際に施策努力分に対してどのように還元していくのか明確にし、文章に残していきたいと考えている。

1.世界的な未曾有の物価上昇、水道光熱費やガソリン代の価格の値上がり、健康で文化的な日常生活に深刻な影響を及ぼしていることから、健やかで心豊かな生活を保障するための緊急措置として、基準内賃金の0.4ヶ月を支給すること。

2.契約社員Aは社員に準じて支給すること。

3.契約社員B・臨時雇用員に一律10万円を追加支給すること。

**ゼロ回答**

【回答】既に貴側より申4号により申し入れを受け、数度の交渉を経て11月18日開催の団体交渉にて会社より回答とその趣旨を示しており、その考えはない。

(組合) 前回の交渉では「今年度黒字を出すためには厳しく下方修正を行わなければならない」と言われたが、具体的にどのように単月黒字、年間黒字にしていくのか考えを聞きたい。

(会社) 申4号団交において説明してきたが、期首に計画した計画変更しなければならない。数字については示すことが出来ないが上期10億円の赤字であったが、このままいってしまうと下期も10億円の赤字になってしまうのでそうしないようにしていきたい。コロナ禍前から10月から3月まで黒字記帳になるという月ではない。単月黒字達成の可能な月は12月と3月であり、この2ヶ月の黒字を包括しても下期は黒字にならない。上期より大幅に赤字を圧縮していきたい。コロナ前だと10月11月も黒字を出せる月であったが厳しい状況である。12月と3月を単月黒字にすることを目標にする。グループ会社の参考だが、バス東北において第二四半期は赤字決算であったが、単月黒字を達成しており下期でも続いている。ただ高速線単体で黒字は厳しいようだが、収支構造的に業務委託収入(仙台市交通局)があり収入のシェアがある。今年度については東北地方の豪雨や列車代行の計画代行などJR東日本からの受注があり、そのようなことが相まって単月黒字化になった。このまま単月黒字基調になれば黒字転換できるのではないかと。

当社は今の状況ではコロナ禍以降黒字記帳、単月黒字すら実現していないため比較するのは難しい。申4号の申し入れを受けて昨年より0.4ヶ月増の1.6ヶ月という回答を示したが、苦しい財務状況や経営状況の見直しを含め、大幅な収支改善に至った業績連動を鑑み中での還元を検討した。単月黒字になった場合については数字で示すことができないが、次の賞与は23年の夏季手当では22年度下半期・通期の収支と財務状況を鑑み検討させてもらうが、具体的な考え方などは差し控える。

(組合) 昨年は厳しい中で1.2ヶ月。10億円赤字で1.6ヶ月であった。年度末が赤字であったら「また1.数ヶ月なのであろう」とう声が上がっている。生活実態を踏まえて最低ラインとして2.6ヶ月ということで申し入れをしたが、従来のボーナスの水準に戻すべきである。

(会社) 勿論そこを目指していくつもりであるが、赤字が続くことは許されることではなく、黒字に1日でも早く転換していかなければならない。社員採用時の賞与の実績説明において21年度は年間2.5ヶ月、コロナ禍前は年間最大5.7ヶ月であったと説明している。コロナ禍前に戻すことはいつなのか分からないが、いずれはその姿に戻すことが理想である。ただコロナ禍に戻すことは難しく、異なる収入確保へのアプローチや収支構造の見直しの必要性を経営陣も認識している。